

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学			
	1 年時	2 年時	3 年時		1 年時	2 年時	3 年時	
			A	B			A	B
H29 入学 現 1 年	67.5 (0.99)				62.4 (0.91)			
H28 入学 現 2 年	66.6 (0.97)	57.5 (0.99)			66.3 (0.91)	49.0 (0.90)		
H27 入学 現 3 年	72.7 (0.99)	60.9 (0.92)	71.8 (0.94)	65.3 (0.93)	66.0 (0.93)	45.3 (0.82)	51.4 (0.82)	39.2 (0.85)
H29 正答率の全国比			(0.93)	(0.90)			(0.79)	(0.81)

◎ 1・2 年時は佐賀県学習状況調査、3 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率 (%)、下段( )は県平均を 1 としての比較。

◎ 「H 2 9 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<学習状況調査において県を上回った点>

- ① 国語では、どの学年も「読むこと」での正答率が高くなっている。特に漢字の読みや語句に関する知識を問われる問題はよくできている。
- ② 数学では、知識・理解に関する問題では、正答率がよい。無解答率は下がってきている。
- ③ 将来の夢や目標をもって生活することができており、学校に行くことは楽しいと感じている。話し合い活動の場が増えてきており、自分の考えを発表していると考えている生徒が多い。

<学習状況調査より読みとれる課題>

- ① 国語では、どの学年も「書くこと」での正答率が下がっている。特に条件や状況に沿って適切な文を書くことが課題となっている。
- ② 数学では、説明する問題や数学的な考え方を要する問題について正答率が下がっている。
- ③ 宿題をはじめ、予習、復習など家庭学習にあてる時間が少ない。説明や記述が必要な問題に苦手意識を持っている。

<意識調査（生徒質問紙）において県を上回ったところ：家庭で>

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	83.5%	79.1%	ある程度規則正しい家庭生活を送ることができている。
家の人と学校での出来事について話をする。	74.5%	73.1%	

<意識調査（生徒質問紙）において県を上回ったところ：授業で>

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
読書は好きだ。	81.2%	72.5%	自分なりに整理したり，工夫したりして授業に臨んでいる。
授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。	62.5%	60.3%	
授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。	85.7%	83.6%	

<意識調査（生徒質問紙）において県を上回ったところ：日常生活で>

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
自分には，よいところがあると思う。	72.3%	70.3%	自尊心が強く，自分を主張して自己表現ができる。 支持的風土のある中で，自分の思いや考えを表現することができている。
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。	55.4%	50.9%	
生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。	70.1%	67.1%	

<意識調査（生徒質問紙）における課題：家庭学習で>

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
学校の宿題をしている。	83.9%	92.5%	授業の予習や復習を毎日している生徒の割合が低く，家庭での学習習慣が定着していない。
学校の授業の予習をしている。	18.7%	31.1%	
学校の授業の復習をしている。	44.2%	57.5%	

<意識調査（生徒質問紙）における課題：授業で>

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考える。	68.1%	76.8%	粘り強い学習態度に欠け，より深い思考を必要とする課題を苦手としている。
問題を解くとき，もっと簡単に解く方法がないか考える。	81.7%	86.4%	
公式やきまりを習う時，その根拠を理解するようにしている。	70.4%	76.5%	

<意識調査（生徒質問紙）における課題：日常生活で>

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
今住んでいる地域の行事に参加している。	41.1%	47.9%	地域・社会への関心が薄く，物事を深く，広く考えることを苦手としている。
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	56.2%	62.2%	
新聞を読んでいますか。	10.3%	16.3%	

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ① 授業の中で、ペア・グループの活動を「確かめ合う」「練り合う」「高め合う」の3段階に設定し、具体的に実のある「学び合い」を目指す。たとえば、「確かめ合う」活動を授業の導入に設定し、その内容を宿題の補充・確認とする指導法を、本校の学習規律の一つとしていく。
- ② 全教科で研究授業を設定し、校内研究の趣旨に沿った指導方法を確立していく。
- ③ 国語においては、数多くの文章にふれさせたり、基本の辞書引きにもどしたりすることで、語彙力を高める。新聞のコラムなどを読んで自分の意見や考えを書いて読み合う活動を取り入れる。設問内容を忠実に読み取らせ、前提と条件に分けて読むように意識させる。用いる語彙や表現に関しては、意図や効果まで考えさせる。
- ④ 数学においては、ドリル学習を取り入れ、計算力を定着せていく。また、テストの事後指導や宿題の出し方を工夫することにより、授業やテストに反映するような宿題にしていく。さらに、タブレットやデジタル教科書などのICT機器を利活用したり、答えを求める過程でグループ学習を取り入れたことにより、多様な考えや深い思考を必要とする時間を授業の中に設定する。
- ⑤ 社会においては、まず、授業の受け方と課題の提出を徹底させるなど、学習規律を確立していく。また、単元ごとの小テストで復習を行い、基礎的知識の定着を図る。さらに、各単元で、資料の読み取りや説明を必要とする問題を設定し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- ⑥ 理科においては、授業はじめに確認プリント等を用いて復習に取り組みせ、基礎・基本の定着を図る。また、観察実験では、学習課題をはっきりさせることにより、目的をもって取り組みせ、結果や気づきをもとに思考して記録をとらせる。さらに、ICTを活用したシミュレーション・可視化等により、不可視事象に対応していく。
- ⑦ 英語においては、授業の中で簡単な英作文に取り組みせ、生徒の関心が高くなるよう工夫する。また、単語・基本文のリストを使って、Bノートに取り組みせ、定着度を確認するための小テストを行う。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ① 「武中ダービー」(全校一斉朝の小テスト)については、「勉強も面白いかもしれない」と感じさせる課題を与えるなど、より進化した「武中ダービー」にしていく。
- ② 定期テストの前には「プレテスト」を実施しながら、その在り方を検討し、改善していく。
- ③ 宿題と次時の授業のつながりを検討し、家庭学習や授業の改善につなげていく。
- ④ 放課後学習会についても、方法等を検討してより効果的な学習会をすすめていく。

今回の調査結果を踏まえ、学校ではこれまでの取組を点検・検証し、必要な改善を加えながらPDCAサイクルの充実を図り、基礎・基本のさらなる定着と活用力を高めるための指導方法の改善を推進していきます。これまで以上に保護者や地域の方の協力を得ながら、学校・家庭・地域が連携しあって子どもたちを育てていけるよう話し合いを進め「子どもたちの夢を形にできる教育」の支援体制をつくります。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学			
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時	
			全国 A	全国 B			全国 A	全国 B
H29入学 現1年	<b>68.9</b> <b>(1.01)</b>				<b>70.2</b> <b>(1.02)</b>			
H28入学 現2年	67.4 (0.98)	<b>63.1</b> <b>(1.09)</b>			66.6 (0.91)	<b>58.9</b> <b>(1.08)</b>		
H27入学 現3年	83.9 (1.15)	74.4 (1.12)	<b>81</b> <b>(1.05)</b>	<b>80</b> <b>(1.14)</b>	82.1 (1.15)	66.4 (1.21)	<b>75</b> <b>(1.21)</b>	<b>61</b> <b>(1.33)</b>
H29 正答率の全国比			<b>(1.05)</b>	<b>(1.11)</b>			<b>(1.16)</b>	<b>(1.27)</b>

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1.00としての比較。

◎ 「H29 正答率の全国比」は全国平均を1.00としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

ア 学力・学習状況調査

(1) 1年生は、国語及び数学とも県平均とほぼ同等です。

国語では、本校の平均正答率 68.9%で、県平均を 0.4 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、県を 1.00 とすると、「話す・聞く」は 1.02、「書く」は 1.14 で、2 観点が県平均を上回っています。
- ・ 設問別でみると「文章の内容を的確に押さえて、要旨をまとめる」は、県平均に対して本校の正答率は 19 ポイントも下回り、「相手や場に応じた、適切な言葉遣いで話す」でも、県平均に対して本校の正答率は 10.8 ポイント下回っています。

数学では、本校の平均正答率は 70.2%で、県平均を 1.7 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、県を 1.00 とすると、「技能」が 1.03、「知識・理解」が 1.06 で、2 観点が県平均を上回っています。
- ・ 領域別では、「数と計算」、「量と測定」の領域で、県平均を上回っています。特に、基本的な計算については、全ての設問で正答率が 90%を超えており、十分達成できています。「量と測定」の「表された体積を、 $\text{cm}^3$ で表す」設問では、本校の正答率は県平均を 13.3 ポイント上回っています。
- ・ 「数量関係」の観点において、「日常生活の事象から比例や反比例の関係にある事象を見つけることができる」の設問では、県平均に対して本校の正答率 11.3 ポイントも下回っています。また、「図形」の観点では、「示された式の意味を理解し、式の中の数値を変え

ることで、トラックの外側の線の長さを求める式を考える」設問では、県平均に対して本校の正答率は 12.8 ポイントも下回っています。

(2) 2 年生は、国語及び数学とも県平均を上回っています。

国語では、本校の平均正答率は 63.1%で、県平均を 5.1 ポイント上回っています。

- 昨年 12 月実施の学習状況調査では、県平均を 3.6 ポイント上回っていましたが、更に向上しています。
- 観点別では、県を 1.00 とすると、「読む」1.18、「知識・理解・技能」1.12 と「書く」以外の観点で上回っています。
- 領域別では、「書く」が、県平均に対して本校の正答率が 5.6 ポイント下回った以外は他の観点では同等または上回っています。
- 記述式の設問のうち、「相手の発言を注意して聞き取り、発言を整理して自分の考えをまとめる」設問は、県平均を 9.3 ポイント下回り、感想文に書き加えたい一文を入れる場所とその理由を書く設問「段落の役割を考えて文章を構成する」では、9.4 ポイント下回っています。また、理由を示す「～からだ」を文末に入れる設問「根拠を明確にして自分の考えを書く」では、18.5 ポイントも下回っています。

数学では、本校の平均正答率は 58.9%で、県平均を 4.6 ポイント上回っています。

- 昨年 12 月実施の学習状況調査では、県平均を 1.1 ポイント上回っていましたが、更に向上しています。
- 正の数と負の数の減法や文字式の加法、減法の計算、一元一次方程式の正答率は 9 割を越えています。関数の分野でも県平均を上回っているものが多くあり、特に比例や反比例のグラフの特徴については大幅に上回っておりよく理解できています。無解答率はどの問題も県より低く、問題に取り組む姿勢はおおむね良好と考えられます。
- 領域別の「図形」では、県平均に対して本校の正答率が 3.2 ポイント下回っています。特に、線分の垂直二等分線の作図、図形の回転移動、空間での直線の位置関係、柱体の表面積や体積を求める設問では、県平均に対して本校の正答率は 3.7～17.9 ポイント下回っており、今後の努力すべき課題と考えています。

(3) 3 年生は、国語 A、B 及び数学 A、B の 4 区分すべてで全国平均及び県平均を上回っています。A は主として知識に関する問題で、B は主として活用に関する問題です。

なお、今年度は、学校及び都道府県の平均正答率は、整数値で公表されています。

- 国語 A は、本校の平均正答率は 81%で、全国平均を 3.6 ポイント、県平均を 4.0 ポイント上回っています。

「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」などの各観点別にみても、正答率は全国や県の平均と同等かやや上回っている状況ですが、個別の問題ごとでは、「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」や「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」、「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」の問題が全国や県よりも低くなっていますので、今後の力を入れて取り組む必要があります。

また、「話し合いの場において、結論が出ずもう一度話し合うことになった」という状

況を表す語句（漢字三字以内）を答える問題の正答率は、全国平均に対して本校もほぼ変わりませんでした。無解答率が 18.2%と全国や県よりも高く、他の問題に比べても高い率になっています。

- 国語Bでも、本校の平均正答率は 80%で、全国平均を 7.8 ポイント、県平均を 10.0 ポイント上回っています。

全ての領域で全国平均より 5 ポイント以上上回っていますが、問題別でみると、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」や「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」問題が、全国や県平均よりやや低い正答率ですので、力を入れる必要があります。

また、本の一部から「比喻を用いた表現に着目し、自分の感じたことや考えたことを書く」問題においては、全国の正答率に対し本校は上回ってはいるものの正答率が他の問題に比べて低く、また、無解答率も 9.1 と高い率になっています。

- 数学Aは、本校の平均正答率は 75%で、全国平均を 10.4 ポイント、県平均を 13.0 ポイント上回っています。

どの領域も全国平均より 8~10 ポイント程度上回っており、学習したことが身に付いていると思われます。しかし、正答率が 90%を超えている問題が多くある中で、全国や県の平均を超えていない問題もあります。例えば、「二元一次方程式の解の意味を理解している」や「平行移動した図形をかくことができる」の問題で、改善していくことが必要です。また、関数の内容で、「与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している」問題は、全国や県よりも無解答率が高くなっています。

- 数学Bでも、本校の平均正答率は 61%で、全国平均を 12.9 ポイント、県平均を 15.0 ポイントと上回っています。

「関数」を除く各領域においては全国や県の平均を大幅に上回り、数学の知識だけでなく活用力もよく身に付いていると思われます。「関数」の領域において、「与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができる」の問題は正答率 100%であるのに対し、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の問題は正答率 13.6%、無解答率 36.4%と、全国や県の平均よりも低い数値になっています。同じ領域内で「できる」、「できない」の差があることが分かり、今後、重点的に取り組んでいく必要があります。

#### (4) 生徒意識調査

※ 5月に公表された県集計の数値を使っていますので、3年生の場合、全国との比較分析は割愛しています。

学力と関連する項目について、以下のような結果が得られました。

- ① 「学校の授業の復習をしている。」では、「している」の割合が県の各学年とも県平均は、20%台であるのに対し、本校1年生は 46.4%、2年生は 45.9%、3年生は 36.4%と高い数値でした。家庭において復習や宿題がわれていることが分かります。しかし、「あまりしていない」、「全くしていない」が各学年とも 20%弱の生徒がいますので、家庭学習の大切さを継続的に指導していく必要があります。

- ② 「学校の授業時間以外の普段の勉強時間」では、どの学年も県平均より多い傾向にありますが、「2時間以上」学習している割合は、1年生 53.6%（県 20.4%）、1年生 46.0%（県 26.2%）、3年生が 50.0%（県 28.6）と家庭学習が習慣化しているようです。ただし、3時間以上頑張っている生徒は、2年生、3年生で県よりも少ない状況です。
- ③ 「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている」では、「そう思う」の割合がどの学年も 50%を超えており、県平均を上回っています。特に1年生では 75.0%の生徒が「そう思う」と答えており、県を 30%強も上回っています。本校が授業における言語活動に力を入れている成果だと考えています。
- ④ 県の調査である1年生、2年生だけの質問項目に「学校では、落ち着いて勉強することができている」では、「そう思う」「どちらかいうとそう思う」の割合が1、2年生とも県平均よりも 4~6%下回っています。状況を詳しく分析する必要があります。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 全国・県の学習状況調査の分析結果に係る校内研修を行い、本校の課題を共通理解して授業改善を図ります。
- 次期学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研修を深め、全職員、共通理解のもと推進していきます。
- 「学力向上は日々の授業から」を念頭に全職員が研究授業を行い、分かる授業を展開ができるよう授業力の向上に努めます。
- スマイル学習を推進した協働学習や言語活動をテーマにした西部型授業を行います。
- 効果的な ICT 利活用についてさらなる可能性を探ります。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

○家庭学習の充実
家庭学習の時間を毎日調査し、月ごとに集計して掲示を行います。宿題提出率調査や頑張っている生徒の自学ノートを紹介するなどの取組も行います。
○Shu-Chu-Train の活用
タブレット端末を活用し、週に4日、朝の時間を活用して全校で取り組むことで、基礎学力の定着や授業時間の活性化を図ります。
○放課後等補充学習（北中タイム）の充実
9月以降に補充学習を行うことで、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図ります。
○表現力の向上
帰りの会で「一分間スピーチ」や「授業の振り返り」を行い、自分の言葉で発表する機会を増やし、表現力の向上を目指します。
○中1ギャップ解消
小学校6年生に対して、「出前授業」を3学期に5回（5教科）程度行い、スムーズな中学校への入学を目指します。
○読書の推進
週4日、朝読書を継続して行うとともに、幅広いジャンルの本に親しめるように、本の紹介や読み聞かせを行います。

参考として各学年の詳細な教科別の分析結果及び意識調査の結果をお知らせします。

以下「全国学力・学習状況調査」（3年生）及び「佐賀県小・中学学習状況調査」（1、2年生）を、それぞれ「全国調査」、「県調査」と呼びます。また、「意識調査」とは、児童生徒質問紙調査を指します。

なお、3年生の全国調査における教科別の分析や意識調査の集計結果の数値は、国よりも先に県で集計された結果（5月中旬）で分析していますので、国語、数学がA問題、B問題に分かれていないことや、8月下旬に公表された国の集計数値と若干異なる項目があることをご了承ください。

ただし、下記3の「教科に関する調査結果の概要」に示している平均正答率は国で公表された数値です。

1 調査実施日及び方法 平成29年4月18日（火） 全数調査（全員が対象です）

2 調査の対象学年 ※A：主として知識に関する問題、B：主として活用に関する問題

	全国調査	県調査
3年	国語A及び国語B、数学A及び数学B、意識調査	
2年		国語、数学、意識調査
1年		国語、数学、意識調査



### 3 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国調査の平均正答率（今年度は都道府県及び学校の平均正答率は整数値で公表されています。）

		国語A	国語B	数学A	数学B
3年	本校	81	80	75	61
	県	77	70	62	46
	全国	77.4	72.2	64.6	48.1

(2) 県調査の平均正答率

		国語	数学
2年	本校	63.1	58.9
	県	58.0	54.3
1年	本校	68.9	70.2
	県	68.5	68.5

### 4 学年別の分析

#### 1年生

##### (1) 県調査：国語

###### ○県と比較してよかった点

- ・本校の平均正答率は 68.9 で、県平均の 68.5 を 0.4 ポイント上回った。
- ・県平均を上回っている設問数は、全 33 問のうち 19 問だった。
- ・観点別では、県を 1.0 とすると「話す・聞く」1.02、「書く」1.14 の 2 観点が上回った。

###### ○県と比較してよくなかった点

- ・観点別正答率で見ると、県を 1.0 とすると本校は「読む」0.97、「知識・理解・技能」0.98 において下回った。
- ・「読む」問題において、4一「文章の内容を的確に押さえる」は、県平均 36.2 に対して本校 32.1 の 4.1 ポイント下回り、4二「文章の内容を的確に押さえて、要旨をまとめる」は、県平均 51.1 に対して本校は 32.1 と 19 ポイントも下回っている。読み解く力が課題。
- ・「漢字の書き」にも大きな課題がある。5二2「率いる」（64.3 ポイント、県正答率比+1.0）、5二3功績」（7.1 ポイント、県正答率比-19.7）、5二5「快く」（35.7 ポイント、県正答率比-19.1）と到達状況でも努力を要するという評価になっている。
- ・観点別では「話す・聞く」は県正答率を若干上回っているが、設問別にみると、1一「相手や場に応じた、適切な言葉遣いで話す」は、県正答率の 67.9 に対し、本校は 57.1 と 10.8 ポイント下回っている。

##### (2) 県調査：数学

###### ○県と比較してよかった点

- ・平均正答率は 70.2 で、県平均の 68.5 をやや上回っており、県平均を上回っている設問数は、全 27 問のうち 17 問でした。
- ・評価の観点で見ると、「技能」「知識・理解」では、ともに県平均を上回っている。

- ・領域別では、「数と計算」「量と測定」の領域で、県平均を上回っている。
- ・とくに大問1の基本的な計算については、4問ともに正答率が90%を超えており、十分達成できている。なかでも(4)  $5/4 \div 2.5$  の計算は、被除数が分数、除数が小数の除法の計算の問題であるが、本校の正答率は92.9で、県平均79.3を13.6ポイント上回った。
- ・「量と測定」のなかでは、大問2(2)の $m^3$ で表された体積を $cm^3$ で表す問題では、本校の正答率は82.1で、県平均68.8を13.3ポイント上回った。

#### ○県と比較してよくなかった点

- ・領域別では、「図形」「数量関係」の領域で、県平均をやや下回っている。
- ・「数量関係」では、とくに大問3の日常生活の事象から比例や反比例の関係にある事象を見つけることができるかを問う問題では、どちらも正答率が低く、とくに比例の関係を見つける問題では県平均72.0に対して、本校は60.7で、11.3ポイントも下回っている。
- ・「図形」では、とくに大問7は、示された式の意味を理解し、式の中の数値を変えることで、トラックの外側の線の長さを求める式を考える問題であるが、県平均41.4に対して、本校の正答率は28.6と低く、12.8ポイントも下回っている。
- ・評価の観点でみると、「考え方」を問う問題で県の平均を下回っており、記述式や「活用」に関する問題に課題があることがわかる。

### (3) 意識調査

○県と比較してよかった点 ※ ( ) 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (4) 人の役に立つ人間になりたいと思う。(82.6% : 県71.5%)
- (5) 将来の夢や目標をもっている。(78.6% : 県61.7%)
- (6) 学校の授業時間以外に普段1日当たりどれくらいの時間勉強するか。(塾、家庭教師含む)
  - ①3時間以上(10.7% : 県4.6%)
  - ②2時間以上3時間未満(42.9% : 県15.8%)
- (11) 自分で計画を立てて勉強している。(46.4% : 県28.8%)
- (14) 学校の授業の復習をしている。(46.4% : 県27.4%)
- (17) 授業では自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。(64.3% : 県42.5%)
- (18) 授業では生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。(75.0% : 県43.7%)
- (22) 生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う。(57.1% : 県36.7%)
- (23) 授業の中で目標が示されていると思う。(89.3% : 県61.9%)
- (24) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う。(57.1% : 県29.2%)
- (25) 授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いていると思う。(71.4% : 県57.5%)
- (27) 社会の勉強は好きだ。(50.0% : 県34.0%)
- (37) 社会の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ。(75.0% : 県59.5%)
- (38) 数学の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ。(85.7% : 県75.8%)
- (48) 社会の授業で調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートに書いている。(64.3% : 県49.5%)
- (52) 理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている。(78.6% : 県56.6%)
- (58) 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出た時に役に立つ。(64.3% : 県50.8%)

(69) 今住んでいる地域の行事に参加している。(78.6% : 県42.2%)

○県と比較してよくなかった点 ※ ( ) 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

(3) 友達に会うのは楽しいと思う。(75.0% : 県88.9%)

(8) 土曜日は何をしてお過ごしが多いですか。

⑤家でテレビやDVD、ゲーム(39.3% : 県19.6%)

⑦友達と遊んでいる(14.3% : 県27.9%)

(16) テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。

(17.9% : 県41.4%)

(28) 数学の勉強は好きだ。(21.4% : 県35%)

(50) 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。

(35.7% : 県50.4%)

(63) 普段1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVDを見たりしているか。

①4時間以上(28.6% : 県13%) 参考: 全く見ない生徒(0% : 県1.5%)

## 2年生

### (1) 県調査: 国語

○県と比較してよかった点

- ・本校の平均正答率は63.1で、県平均の58.0を5.1ポイント上回りました。昨年度の12月実施では、県平均68.0に対して71.6でしたので、更にその差が大きくなり若干向上しています。
- ・県平均を上回っている設問数は、全31問のうち20問でした。
- ・領域別では、県を1.0とすると「話す・聞く」1.08、「読む」1.18「知識・理解・技能」1.12で、「書く」以外は上回っています。

○県と比較してよくなかった点

- ・正答率でみると、県を1.0とすると本校は「書く」0.89で、観点別では唯一下回っている。
- ・二三は、インタビューに出てきたことをまとめ、発言したと思われる内容を書く記述式の問題で、県平均を9.3ポイント下回りました。「インタビューに出てきたことの中からすべて書く」という条件がありましたが、出てきた4つのポイントを全てかけていない誤答もありました。一番多かった誤答は、『～だけでなく』を用いて、新しく発見したことがはっきりと分かるように」という条件で、「～だけでなく」を3つ目のポイントの前に使ってしまったという誤答です。「新しく発見したこと」は4つ目のポイントで示しているのに、その前に「～だけでなく」を置かなければならないということに気付いていなかったようです。ここでは、この他2つの条件があり、計4つの条件を満たして書くことになっていましたが、他の条件はしっかりと満たしている回答がほとんどでした。しっかりと読み取り、条件に合った解答を書けるようにする練習がまだまだ必要だと考えられます。
- ・三四は、理由を示す「からだ」を文末に入れる問題で、18.5ポイント下回りました。因果関係を表す語が必要だということに気付いていない生徒も多かったようで、さまざまな誤答がありました。文末表現などにも意識をして、正しく書くことを意識して書く活動に取り組みせたいと思います。
- ・三五は、感想文に書き加えたい一文を入れる場所とその理由を書く記述式の問題で、9.4ポイント下回りました。場所は分かったもののその理由がかけていない誤答が多かったです。昨年12月までは、書く活動に時間をとって丁寧に行った結果、12月調査の結果では「書くこと」の領域が向上していました。しかし、今回「書くこと」の正答率は県の平均を下回っています。もう一度、確か

に書く力をつけることと、根拠を示して書く指導の見直しを行いたいと思います。

- ・6六は、古文の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題で、23.8ポイントと大きく下回りました。誤答のほとんどは、「おほきになれ」を「おおきくなれ」と直したもので、単純に「ほ」を「お」と直せず、「大きい」という言葉に引っ張られてしまったものが多い見受けられました。「おおき」という現代語にはない語になじみがなかったため、勝手に「大きく」と考えてしまった生徒が多かったようです。古文になれ親しみ、すらすらと読む練習を行い、古語にも慣れさせる指導を意識したいと思います。

## (2) 県調査：数学

### ○県と比較してよかった点

- ・数や文字式の加法、減法、一元一次方程式は県の正答率を越え、9割前後の正答率である。基本的な計算の方法についてはよく身に付いていると考えられる。
- ・関数の分野でも県正答率を上回っているものが多い。特に比例や反比例のグラフの特徴はよく理解しており、大幅に上回っている。
- ・無回答率はどの問題も県より低く、問題に取り組む姿勢はおおむね良好と考えられる。

### ○県と比較してよくなかった点

- ・図形の分野で、県正答率を下回るものが多かった。線分の垂直二等分線の作図、図形の回転移動、空間での直線の位置関係、柱体の表面積や体積を求めることに課題がある。これらはおおむね達成も下回っているため、再度確認が必要である。

## (3) 意識調査

### ○県と比較してよかった点 ※ ( ) 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (1) 学校に行くのは楽しいと思う。(67.6% : 県51.2%)
- (5) 将来の夢や目標をもっている。(59.5% : 県42.6%)
- (12) 学校の宿題をしている。(97.3% : 県80.0%)
- (14) 学校の授業の復習をしている。(45.9% : 県24.0%)
- (18) 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。(54.1% : 県45.9%)
- (23) 授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていると思う。(78.4% : 県58.3%)
- (41) 読書は好きだ。(%) : 県%)
- (69) 今住んでいる地域の行事に参加している。(81.1% : 県28.6%)

### ○県と比較してよくなかった点 ※ ( ) 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (2) 学校では落ち着いて勉強することができていると思う。(18.9% : 県41.3%)
- (60) 電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは、楽しみだ。(18.9% : 県46.0%)

## 3年生

### (1) 全国調査：国語

#### ○県と比較してよかった点

- ・県の平均正答率74.4に対して、本校の平均正答率は79.5で県平均を上回った。
- ・問題別に見てみると、学習指導要領の内容・領域等における「書く」が県平均67.5に対し、76.7

と上回った。「相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す」という記述式の問題では、無回答は無く、県の正答率 55.0 に対し、72.2 であった。

#### ○県と比較してよくなかった点

- ・ A 9 五・・・「話し合いの場において、結論が出ずもう一度話し合うことになった」という状況を表す語句（漢字三字以内）を答える問題の正答率は、県 25.2 に対して、本校は 14.3 と低く、また無解答も 19.0 と多かった。事象や行為を表す多様な語句の理解だけでなく、「決定し、取り入れられたこと→可決」、「賛成を得られなかった、取り入れられなかった→否決」というヒントが問題に示されていたがそれらから推測して書くことができなかった。
- ・ B 1 三・・・本の一部から、「比喩を用いた表現」に着目し、その効果を適切に捉えて、自分の感じたことや考えたことを記述する問題において、県の正答率 29.7 に対し、本校は 36.4 と上回ったものの、正答率は低く、無解答 9.1 と多かった。条件 1 の「比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出す」ところで、適切に一文を書き抜いている生徒は 2 2 人中 1 2 人だけであった。比喩自体を見つけられなかったり、一文という条件を満たしていなかったりする解答が見られた。また、条件 2 では、条件 1 で取り上げた比喩表現が「誰（何）の」、「どのような様子なのか」を明確にしたうえで、自分の感じたこと・考えたことを記述しなければならなかったが、条件 1 で比喩表現を抜き出しているにもかかわらず、それを自分の言葉で適切に表現することができていなかった。

### (2) 全国調査：数学

#### ○県と比較してよかった点

- ・ 全体の正答率は県より 12.8 ポイント上回っている。
- ・ どの領域も県より 10 ポイント以上上回っているが、特に図形においては 15 ポイント以上上回り学習したことが身に付いていると思われる。また、評価の観点別でも、どれも県を上回っている。

#### ○県と比較してよくなかった点

- ・ 数と式の問題で、正答率が 9 割を超えてよくできているものも数問ある一方、県の正答率を超えていないものも数問ある。
- ・ 無解答率が県を上回るものが各領域に 1 問ずつあり、なかでも関数で、与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解するという問題の無解答率が比較的高い。

### (3) 意識調査

#### ○県と比較してよかった点 ※（ ）内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (1) 朝食を食べている。(100% : 県 84.6%)
- (8) 話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞いている。(72.7% : 県 59.5%)
- (12) 1 日あたり、どれくらいの時間テレビやビデオ、DVD を見たりしますか。  
(4 時間以上は 0% : 県 11.9%)
- (13) 1 日あたり、どれくらいの時間ゲーム、携帯ゲームをしますか。  
(4 時間以上は 0% : 県 11.9%)
- (14) 平日、1 日当たりどれくらい勉強していますか。(2 時間以上は 50% : 県 28.6%)  
(1 時間以下は 0% : 県 34.5%)
- (27) スマートフォン・携帯電話を持っていない。(63.6% : 県 28.6%)
- (31) 自分で計画を立てて勉強している。(27.3% : 県 17.7%)

- (34)学校の授業の復習をしている。(36.4%:県22.2%) ※ちなみに「予習する」は9.1%
- (35)学校に行くのは楽しい。(68.2%:県49.8%) ※ちなみに「そう思わない」は0%
- (37)好きな授業がある。(63.6%:県53.7%)
- (40)先生はあなたの良いところを認めてくれている。(50.0%:県31.7%)
- (41)先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくれる。(54.5%:県29.8%)
- (42)今住んでいる地域の行事に参加している。(86.4%:県23.2%)
- (50)将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う。(18.2%:県14.8%)
- (51)学校の規則を守っている。(81.8%:県58.6%) ※ちなみに守っていないは0%
- (56)総合的な学習で、自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(059.1%:県26.1%)
- (58)授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。(63.6%:県37.5%)
- (59)授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う。(59.1%:県40.5%)
- (72.81)国語と数学の勉強は大切だと思う。(国は72.7%:数63.6%)

○県と比較してよくなかった点 ※ ( ) 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (5) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。(4.5%:県は21.6%)
- (6) 自分には良いところがある。(13.6%:県26.5%)
- (7) 友達の前で自分の意見や考えを発表することは得意だ。(9.1%:県16.9%)
- (11) 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活で生かしている。(9.1%:県22.9%)
- (44)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。(0%:県は9.7%)
- (47)新聞を読んでいますか。(全く・ほとんど見ない77.3%:県は64.8%)

1 生徒の実態

(3) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学			
	1 年時	2 年時	3 年時		1 年時	2 年時	3 年時	
			A	B			A	B
H29 入学 現 1 年	70.8 (1.03)				72.4 (1.06)			
H28 入学 現 2 年	65.2 (0.95)	55.3 (0.95)			61.8 (0.85)	42.2 (0.78)		
H27 入学 現 3 年	82.3 (1.13)	73.5 (1.11)	82 (1.06)	78 (1.11)	78.6 (1.10)	61.7 (1.12)	66 (1.06)	50 (1.09)
H29 正答率の全国比			(1.06)	(1.08)			(1.02)	(1.04)

◎ 1・2 年時は佐賀県学習状況調査、3 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率 (%)、下段( )は県平均を 1 としての比較。

◎ 「H29 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○ 学習状況調査の結果から見える実態

- ・ 1 年生においては、国語、数学ともに県平均を上回っており、良好な状況です。国語においては、「書く」の領域では、県平均を上回っているものの、「要努力」の達成状況となっています。また、「語句に関する知識」が他の領域に比べて低いため、指導に力を入れていきたいと考えています。数学においては、「数と計算」「量と測定」「図形」の領域で県平均を上回っています。特に、「図形」の領域は「十分達成」の状況です。しかし、「活用」に関する設問では「要努力」の達成状況のため、さらに指導に力を入れていきたいと考えています。
- ・ 2 年においては、国語、数学ともに県平均を下回っている状況です。国語においては、「漢字の読み」活用に関する問題については十分達成の状況です。しかし「書く」「語句に関する知識」の領域に課題があります。数学においては、すべての領域に課題があります。無回答率もすべての領域で県平均より高く、また、「要努力」の生徒の割合も県平均よりも高い状況です。今後より一層、少人数・TT のよさを活かして、支援の充実を図りたいと考えています。
- ・ 3 年生においては、国語、数学ともに県平均を大きく上回っており、良好な状況です。領域の面で見ても、ほとんどの領域で県平均を上回っています。国語 A の「話すこと・聞くこと」の領域が県や全国の平均より低いので、いっそう指導に力を入れていきたいと考えています。おおむね達成、十分達成の生徒の割合が高いのが、この学年の特徴です。

○ 意識調査の結果から見える実態

- ・ 授業に関しては、学習の「めあて」や「まとめ」が授業の中で示されていた、ノートにきちんと「めあて」や「まとめ」を書いていたと答えた生徒の割合は県平均より高かったものの、学習内容を振り返る活

動が上学年になるほど充分でない状況があります。今後、改善していきたいと思ひます。

・学習習慣については、自分で計画して学習に取り組んでいる割合は全学年とも県平均より高い傾向にあります。しかし、宿題については、1年生は100%していると回答していますが、2・3年生については「どちらかといえばしている」まで含めても県平均より低い状況です。内容については、復習を中心とした学習を行っている状況です。

・将来の夢や目標をはっきり持っている生徒の割合は上学年のなるほど低くなる傾向があります。また、「人の役に立つ人間になりたい」と思ふ生徒の割合は高いものの、3年生は県平均を下回っています。様々な体験の不足から自分に自信が持てず、人前で自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを苦手としているようです。

・普段（平日）、1日あたりスマートフォンやゲーム機を使ってゲームやインターネット、SNSなどを1時間以上している生徒の割合が県平均より高く、家庭と連携した指導が必要です。

・朝食摂取については、2年生においては県平均より低く、家庭と連携して指導を行う必要性があります。

・生徒と地域との関わりが強く、地域行事に多くの子どもたちが進んで参加しています。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業に集中して取り組むよう、生活習慣や学習規律、学習環境の整備を継続していきます。
- ・授業の導入時に基礎基本的な内容の定着を図るために前時の復習を行います。
- ・西部型の授業を意識し、生徒に見通しを持たせ、「めあて」と「まとめ」を大切にした授業実践に取り組みます。また、生徒が学習の流れが分かるような板書を心がけます。
- ・本校生徒が苦手としている「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりする」場面を授業の中に設定し、「話す・聞く」「書く」など言語活動の充実に取り組みます。
- ・生徒の興味・関心を高めたり、資料活用能力を育成したりするために、電子黒板やタブレット等の積極的利用を図っていきます。そのために職員のICT利活用能力の向上を目指します。
- ・全職員で生徒の実態を把握、共有し、すべての教科で課題解決に向けた取り組みを行い、年間最低1回以上の研究授業・授業研究会を実施して、教師の指導力の向上を図ります。
- ・確かな学力の定着と向上を図るため校内研究に取り組み、新学習指導要領に向けた準備及び指導方法の改善を図ります。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・学びの学習会を実施し、タイムマネジメント・自主学習の在り方などを学習させ、家庭学習の習慣づけや内容の充実を図ります。また、定期テスト等を活用し、振り返りを行わせ、家庭での時間の使い方について考えさせます。
- ・月曜から木曜まで、朝の会前の20分間でタブレットを活用した「スタディサプリ」を実施し、自分のつまずきに合った課題に取り組みさせ、学力向上を図ります。
- ・「各教科の学習の仕方」に関する冊子を作成し、学級活動などで取り扱い、学習規律の徹底や学習に対する心構えを育てます。
- ・年間2回のQ-Uアンケートを行い、生徒の実態を把握し、学級経営の改善、生徒への支援方法の改善に取り組みます。また、アクティブ・ラーニングの基礎となる指示的風土の醸成を目指し、学級活動や帰りの会などで、グループエンカウンターなどに取り組み、仲間づくりを進めます。



1 生徒の実態

(4) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学			
	1 年時	2 年時	3 年時		1 年時	2 年時	3 年時	
			A	B			A	B
H29 入学 現 1 年	63.6 (0.93)				68.6 (1.00)			
H28 入学 現 2 年	67.9 (0.99)	59.8 (1.03)			67.6 (0.95)	53.4 (0.98)		
H27 入学 現 3 年	72.9 (1.00)	57.9 (0.87)	69.0 (0.90)	61.0 (0.87)	67.6 (0.95)	50.0 (0.91)	55.0 (0.89)	39.0 (0.85)
H29 正答率の全国比			(0.89)	(0.84)			(0.85)	(0.81)

◎ 1・2 年時は佐賀県学習状況調査、3 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率 (%)、下段( )は県平均を 1 としての比較。

◎ 「H 2 9 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

本校の生徒の実態としてはよい結果 (◎)、よいとは言えない結果 (▲) で、次のようなものがあげられる

◎ 1・3 年生で「将来の夢や目標を持っている」の問いに、「当てはまる」と答えた生徒の割合が県平均を上回っている。特に 1 年生では 20 ポイント以上高い結果であった。

◎ 1・2 年生で「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに、「当てはまる」と答えた生徒の割合が県平均を 10 ポイント上回っている。

◎ 1 年生ではほとんどの教科でその教科の勉強が好きだと答えた生徒の割合が 10 ポイント以上県平均を上回っている。

◎ 2 年生では、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめて書いていると思う」の問いに、「そう思う」と回答した生徒の割合が 5 ポイント以上県平均を上回っている。

◎ 3 年生で「授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かしている。」の問いに、肯定的回答が、5 ポイント程度県平均を上回っている。

◎ 全学年ともに「今すんでいる地域の行事に参加している。」の問いに、肯定的回答が 20 ポイント以上上回っている。

▲ 1・2 年生で「新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりしますか。」の問いで、「よくする」「ときどきする」と答えた生徒の割合が 10 ポイント程度県平均を下回っている。

▲ 3 年生で「解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しました」の問いで、「すべての問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒の割合が県平均を 15 ポイント以上下回っていた。

▲ 1・2 年生で「電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは、楽しみだ」との問いで、肯定的回答の割合が、県平均を 10 ポイント程度下回っていた。

▲ 2 年生で、「理科の勉強は好きだ」「理科の授業の内容はよくわかる」の問いに対して、「当てはまる」と答えた生徒の割合が県平均を 10 ポイント以上下回り、しかも 20% を切ってる。

以上の結果などから、本校の教育目標「夢と誇りをもち、自ら活動する生徒の育成～夢に向かって、一歩でも前進～」が、生徒や保護者に浸透し、生徒たちは自分たちなりの目標をもって学校生活を送れていることが窺える。学習に対する意識は、非常に高く、学んだことを活用したいと考えている生徒も多い。しかし、3年生の意識調査で見られるように、すぐあきらめてしまう傾向にある。また、全校的に理数系教科が弱く、苦手意識を持っている。ICT 機器の環境が非常に良く整っている学校であるが、生徒の活用意識は低い傾向にあることが感じられる。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (2) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成を目指し、他者との関わりを重視した授業作りを行う。
- 2 コミュニケーション力（自分を表現する力）が低調であることと、学力低下と学力差の拡大に対処するために、少人数授業と英語・数学のティームティーチングでのきめ細かい指導による学力向上を目指す。
- 3 特に昨年度から学力の低下を懸念している3年生においては、国語・社会・数学・英語で少人数展開を理科で異教科 TT を行っている。指導の充実と学習環境を整えることで学力向上を図っている。
- 4 タブレット・スマートボード等の活用法を再検討し、早急な改善の必要がある。効果的な（生徒の興味関心が高まる）ICT 利活用をしながら、各自授業を工夫し、生徒の長所を伸ばし、苦手としている領域を減らす手立てをしていく。
- 5 山内中校区（小中3校）で活用力向上研究指定事業の委嘱を受け、小中連携しながら研修を重ね、教師の指導のあり方、「活用力」について学習し理解を深めていく。生徒の主体的な学習を引き出すために、課題の提出、課題の量、協働学習に必要なグルーピング、学習計画表と評価についても教科を超えて再確認していくこととする。
- 6 効果的な学習指導方法を探るために、教科書のデジタルコンテンツの使用方法、タブレットの活用方法について夏季・冬季の休業中に研修会をもつ。
- 7 スタディーサプリを活用し、自分に合った学年の学習に取組ませることで、学年全体の底上げを図る。また、到達目標や達成具合を明確に示しながら生徒の主体的な学習を助長する。

### (2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 礼節を重んじる生徒の育成と生徒一人ひとりに役割と出番を与え、承認する開発的生徒指導の実践を行う。生徒会においては、これまでの立腰教育と無言掃除の徹底を図りながら、ASISAI 運動をさらに充実させ、学習の学びの土台づくりを行う。
- 2 小中連携を行い、立腰教育の継続、家庭学習の習慣化、学習意欲向上に向けて協力していく。
- 3 夢と誇りをもち、自ら活動し、社会に貢献する生徒の育成を目指す。さらに教科間交流、総合的な学習、地域へのボランティア活動等を通してキャリア教育の推進を図る。
- 4 学習の学びの土台づくりの充実のために、生徒会による「立腰集会」や「生徒集会」を行い、日々の学校生活を振り返り帰る活動を行っていく。また、生徒会が掲げる「礼節を重んじる日本一の学校」を目指して、無言掃除や一礼運動を継続的に取り組む。また、立腰教育の共通理解を図るために、生徒会代表、教師、PTA 役員で先進校視察（仁愛保育園）を行ったり、先進校から講師も招聘したりすることで立腰教育のさらなる充実を図っていく。
- 5 幅広い知識や教養を身につけるために、地域社会の人材を活用した講演会、「マナー検定」「掃除検定」等を実施することで、人間形成に役立つキャリア教育を推進していく。

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立北方中学校

1 生徒の実態

(5) 学習状況調査結果の推移

	国 語				数 学			
	1 年時	2 年時	3 年時		1 年時	2 年時	3 年時	
			A	B			A	B
H29入学 現 1 年	67.2 (0.98)				67.3 (0.98)			
H28入学 現 2 年	64.6 (0.94)	54.1 (0.93)			66.4 (0.91)	47.5 (0.87)		
H27入学 現 3 年	70.2 (0.96)	65.0 (0.98)	72.0 (0.94)	63.0 (0.90)	69.4 (0.98)	59.8 (1.09)	65.0 (1.05)	46.0 (1.00)
H29 正答率の全国比			(0.93)	(0.87)			(1.00)	(0.96)

◎ 1・2 年時は佐賀県学習状況調査、3 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率 (%)、下段( )は県平均を 1 としての比較。

◎ 「H 2 9 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【1 年生—国語】

- 無解答率が低いことから、意欲的に取り組んでいることが分かる。
- 図表から読み取ったことを書く問題や、質問の構成を工夫して話す問題がよく解けていることから、表現することに力をもっていることが分かる。
- 漢字をよく読むことができている。
- △ 表現を押さえて文章を読み、読み取ったことに対して自分の考えを書くことが苦手である。

【1 年生—数学】

- 数と計算、割合、分数、体積などの基礎・基本は習得できている。
- △ 今までに習ったことを活用して取り組む問題ができていないので、基礎・基本の習得をより確かなものにするために「説明する」活動を取り入れていく。

【1 年生】

- 計画を立てて勉強している生徒、日曜日に家で読書をしている生徒、図書室で週に 4 回以上本を借りる生徒、平日に 9 時～10 時に就寝している生徒、平日に TV ゲームを全くしない生徒、総合的な学習の時間に対して肯定的な考えをもっている生徒、友達に会うのは楽しいと答えている生徒の正答率が高い。
- △ 予習・復習をしない生徒、苦手教科をそのままにしている生徒、宿題をしない生徒、9 時前に就寝する生徒、平日に TV を 1～2 時間みている生徒、平日に携帯電話を 3～4 時間使用する生徒、話し合う活動が不十分だと考えている生徒の正答率は低い。以上のことから、家庭学習時間の確保と意見交流の確保が必要だと思われる。

### 【2年生—国語】

- 国語を好きだ、分かっていると答えた生徒が多く、意欲をもっていることが分かる。
- 読むことで、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むことができています。
- △ 意見を支える根拠が弱いことから、複眼的思考ができていないことが分かる。そのために、相手の発言の意図を捉えきれなかったり、書くことの無解答率が多かったりしている。

### 【2年生—数学】

- △ 図形や分数など、分からない問題をそのままにしているので、基礎・基本が定着していない。そのため、表現（説明）ができない。

### 【2年生】

- 数学の授業で学習したことを生活の中で活用できないか考える生徒の正答率が高い。
- 朝食の必要性を感じている。
- △ 自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が低い。宿題をしない生徒の割合が高い。家庭学習の定着ができていない。
- △ 読書量30分未満が多く新聞やTVでニュースをみている生徒が少ないので、視野が広がりにくいと思われる。
- △ スマホやゲームの時間が多い。
- △ 授業において自分の考えを発表する機会があまり与えられていないと答えた生徒が多い。

### 【3年生—国語】

- 漢字の読みがよくできている。
- △ 条件を丁寧に押さえて記述をしていない。

### 【3年生—数学】

- 基礎・基本の習得ができています。
- △ 活用に関する問題が弱い。

### 【3年生】

- 計画を立てて勉強をしている生徒、予習をしている生徒、図書館によく行く生徒、TVゲームやスマホの時間が少ない生徒が多い。スマホの使用時間を守る生徒が多い。
- 地域行事に参加する生徒、学級の話し合いなどで折り合いをつける生徒が多い。
- △ ボランティア活動に関心がある生徒、将来の夢や目標をもっている生徒、学校の出来事を家族に話す生徒、平日に読書をする生徒は少ない。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (3) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 読解の指導を表現を押さえて丁寧に言い、自分の考えを説明する機会を確保する。
- ・ 基礎・基本の徹底（小テスト・ドリル学習）を毎時間数分間行う。
- ・ めあての立て方を工夫する。
- ・ めあてを達成させるための適切な言語活動を取り入れる。

- ・ 表現活動（書くなど）を取り入れた振り返りのさせ方を工夫する。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、ICTを利活用した授業デザインを研究し、指導方法の改善を行う。

## (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ やってよかったと思える宿題や個の能力に応じた宿題など、宿題の量や中身について検討する。
- ・ 家庭の協力を得るために、家庭学習時間調査の結果をお知らせしたり、ノー○○デー（テレビ、ゲーム、スマホ、漫画など）を呼びかけたりする。翌朝、実行できたか挙手で確かめて、意識を高める。ノー○○デーについては、小学校やPTAとの連携を図る。
- ・ テスト勉強の取り組み方の指導を、事前事後共に丁寧に行う。
- ・ 「授業についてのアンケート」による生徒への声かけを行い、生徒の学習意欲を高める。
- ・ 学習規律（10分休みの過ごし方、2分前着席など）を更にしっかりと身につけさせる。